

J A 宮崎経済連グループによる地域資源循環型事業モデルの検討

- 宮崎経済連グループでは、野菜や果物の加工事業や養豚の実証農場を運営しており、そこから排出される食品残さの廃棄処理コストが上昇している上、堆肥の有効活用にも課題を抱えていた。
- そこで、令和3年度から事業部門間の垣根を越え、資材・園芸農産・畜産部門と協同会社（農産加工）とが連携し、「持続可能な事業体系」構築に向けた取り組みを開始。
- 今年度は、実証農場で生産される豚ふん堆肥を混合した堆肥入りペレットの製品化や、鶏ふん堆肥を混合し肥料成分を高めた混合堆肥複合肥料の製品化を行い、活用したBB肥料（園芸汎用）を開発・供給を予定。露地銘柄での活用に向け上記を活用した肥料銘柄の現地試験を実施予定。

【現状と課題】

資材高騰の影響

- 肥料、農薬、飼料の高騰
- 燃油、資材等の高騰
- 経済連が供給する農業資材が農家経営を圧迫

資源循環の課題

- 養豚実証農場の堆肥が滞留している。
- 搾汁等残さが産廃処理されてしまい、コストもかかり、有効活用されていない

持続可能な農業

- 輸入される肥料・飼料原料の高止まりや今後の調達不安
- 農業・畜産の主産地として、将来にわたり安定した生産基盤を維持できるのか

肥料・飼料原料としてリサイクルし資源を循環

【アプローチ】

- ① 実証農場の豚ふん堆肥による混合堆肥複合肥料の製品化
- ② 飲料工場からの茶殻を豚のふんに混合し堆肥化
- ③ 飲料工場からの搾汁残さの肥料・飼料利用を検討
- ④ 豚ふん・残さの他産業での利用性を宮崎大学と検討

養豚実証農場等



鶏ふん堆肥
豚ふん堆肥

肥料工場

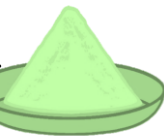


混合堆肥複合肥料
堆肥入りペレット肥料

飲料工場等



農産搾汁残さ等



乾燥・粉化



圃場還元



飼料添加物として混合

茶畑

野菜

果樹

畜産

他産業